

子ども食堂活動報告書

C318032 國井理央

○4月18日

日時:2021年4月18日(日) 11:30~12:00

参加費:大人200円、子ども無料

配布対象者:子どもは幼児~高校生、大人は高校卒業した年齢より上の方全て

配布したもの:

子ども用「まごころバッグ」

- ・お菓子の詰め合わせ(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)
- ・お菓子(個人の支援者さん)
- ・お菓子(こもれびさん)
- ・栄養ドリンク(フードバンク愛知さんを通して大正製薬さん)
- ・バルーンアート(よしま~ずさん)

大人用

- ・お菓子(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)
- ・栄養ドリンク(フードバンク愛知さんを通して大正製薬さん)

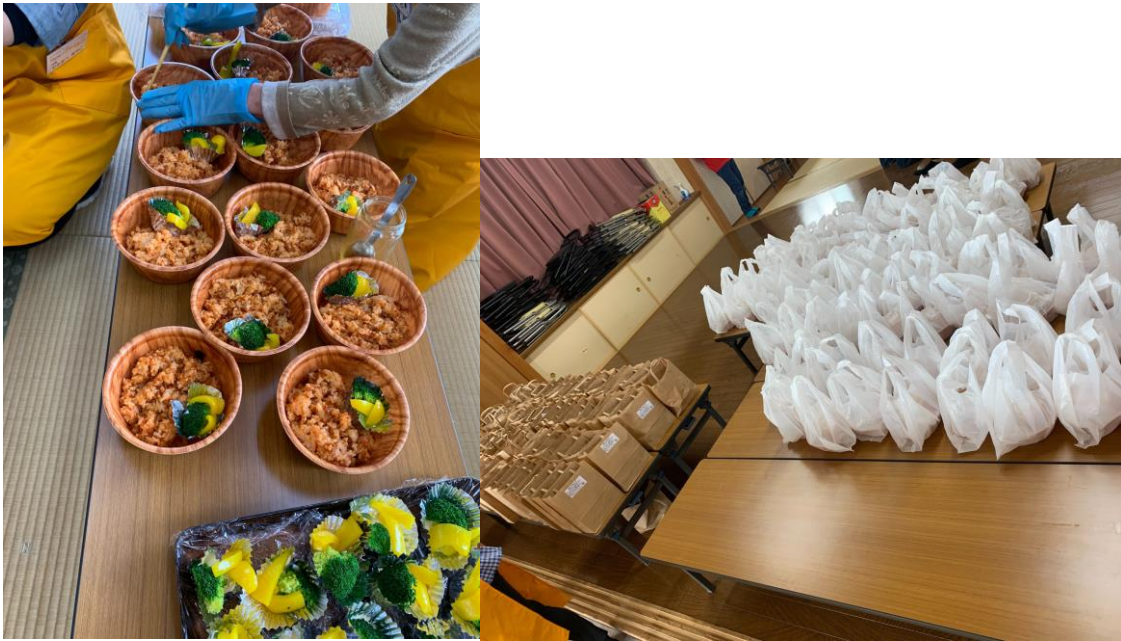
全員用お弁当

- ・チキンライス丼(オムライスの素:むすびえさんを通して神戸物産さん)
- ・付け合わせの野菜(八百種さん)
- ・ごはん(米蔵家さん)
- ・フルーツ

2021年4月18日に知立市西町公民館で開催されたちりゅっ子かふえ magocoro のフードパントリーとお弁当配布・販売に参加した。

今までよりも30分早く9時に集合し、説明の後それぞれ作業を開始した。私はフルーツを容器に入れていく担当と、炊けたごはんにおムライスの素と他の調味料を混ぜ合わせ、容器によそう担当をした。天候は風が強くなったりと不安定ではあったが、ほとんど晴れていたためか、11時過ぎには子どもたちが集まり始め、11時半の開始前には公民館の裏まで列ができていた。11時半からスタートし、お弁当は全て配り終え、余っていたごはんなどをつめて足りなかった4人分を配った。お弁当は128個、まごころバッグは85個用意し、大人64人、子ども74人が来てくれた。

また、冬ごろから大人だけでお弁当を買いに来てくれる人がいることに気付いた。お年寄りの方で、「頑張ってるね」などと声をかけてくれる方が多く、そのたびにボランティアをしていてよかった、頑張ろうと奮起する。「子ども食堂」という名前ではあるが、その対象者にはそれぞれの団体や地域性の特徴が出るのだらうと考えた。



左：お弁当につめる様子 右：準備したお弁当とまごころバッグ（撮影：國井）

○3月25日

日時:2021年3月25日(木) 11:30~12:00

参加費:大人200円、子ども無料

配布対象者:子どもは幼児~高校生、大人は高校卒業した年齢より上の方全て

配布したもの:

子ども用「まごころバッグ」

- ・お菓子 (フードバンク愛知さんを通して森永さん)
- ・お菓子の詰め合わせ (KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)
- ・お菓子 (個人の支援者さん)
- ・栄養ドリンク (フードバンク愛知さんを通して大正製薬さん)
- ・ビーフコンソメスープの素 (神戸物産さん)
- ・防災食 (子ども食堂 ほっとらいすさんを通してジェイテクトさん)
- ・薬用ハンドジェル (むすびえさんを通してLIONさん)

大人用

- ・お菓子 (KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)

全員用お弁当

- ・焼肉弁当 (鶏肉:二宮畜産さん、玉ねぎ・にんじん・ピーマン:八百種さん)
- ・ごはん (米蔵家さん)
- ・漬け物
- ・ウインナー

2021年3月25日に知立市西町公民館で開催されたちりゆっ子かふえ magocoro のフードパントリーとお弁当配布・販売に参加した。

当日の流れは9時半に集合し、作業流れの説明を受けたあと、調理を担当するスタッフとまごころバッグを準備するスタッフに分かれて作業を始めた。10時45分から融資のボランティアの方による読み聞かせを外で予定していた。しかし当日は雨が降ってしまったため、普段お弁当を配る場になっている屋内の土間に変更して行った。土間にパイプ椅子を並べて子どもたちに座ってもらい、保護者の方は後ろで見ていただく形になった。もしコロナ禍ではなく従来の子どもの食堂の形であれば、天候に左右されず室内で全員が座って見れるのだろうと考えるとコロナ禍であることが悔しいが、子どもたちが夢中で聞いている様子が見れたことはよかった。

お弁当は今までと同様に11時半から配り始め、12時に配り終わった。お弁当130個とまごころバッグ97個を用意し、子ども70名、大人55名が来てくれた。また、中京テレビの方も来ていた。24時間テレビの募金の支援事業に子ども食堂があり、そこに応募したため視察に来たそうだ。24時間テレビのホームページによると2019年度より実施していると書いてあり、子ども食堂の認知度が広まってきていることを実感した。



左：調理の様子 右：読み聞かせの様子。建物の中に見える土間で行っている
(撮影：國井)

○2月14日

日時:2021年2月14日(日) 11:30~12:00

参加費:大人200円、子ども無料

配布対象者:子どもは幼児~高校生、大人は高校卒業した年齢より上の方全て

配布したもの:

子ども用「まごころバッグ」

- ・バレンタインのお菓子(ロータリークラブ知立さん)
- ・お菓子の詰め合わせ(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)
- ・ジュース(ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)さん)
- ・ミートソース(フードバンク愛知さんを通してキューピーさん)
- ・お風呂でヒノキ(額田絵と5人の会さん)

大人用

- ・お菓子(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)

全員用お弁当

- ・バターチキンカレー(鶏肉:二宮畜産)
- ・野菜サラダ(八百種さん)
- ・ごはん(米蔵家さん)
- ・福神漬

2021年2月14日に知立市西町公民館で開催されたちりゅっ子かふえ magocoro のフードパントリーとお弁当配布・販売に参加した。内容は前回とほとんど変わらず、今回はバレンタインということで、写真のようにチロルチョコのバラエティボックスなどのチョコのお菓子が3種類入っており、まごころバッグが豪華だった。

当日の流れは9時半に集合し作業の流れの説明を受け、検便をしているスタッフでお弁当を、それ以外のスタッフでまごころバッグなどの準備をした。私はサラダ用のキュウ리를切り、サラダ、ごはん、カレーの盛り付けを行った。今回も11時半のスタート前から子供たちが並び始め、11時半にスタートし、子ども79名、大人61名が来てくれた。今までの開催の中でもかなり多い人数だと感じる。また、今回もお楽しみボックスがあり、子どもたちが楽しそうに開けていた。



左：まごころバッグの中身 右：サラダを盛り付ける様子（撮影：國井）

○1月16日

日時:2021年1月16日(土) 11:30~12:00

参加費:大人200円、子ども無料

配布対象者:子どもは幼児~高校生、大人は高校卒業した年齢より上の方全て

配布したもの:

子ども用「まごころバッグ」

- ・お菓子の詰め合わせ(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)
- ・お菓子(個人の支援者さん)
- ・お菓子(つなしょさん)
- ・ジュース(ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)さん)

大人用

- ・お菓子(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)
- 全員用お弁当
- ・肉炒め(みそだれ)
 - ・マカロニサラダ(八百種さん)
 - ・ごはん(米蔵家さん)
 - ・ふりかけ

2021年1月16日に知立市西町公民館で開催されたちりゅっ子かふえのフードパントリーとお弁当配布・販売に参加した。内容は11月29日に開催したちりゅっ子かふえとほとんど変わらず、お弁当のメニューと配布する土間をひと家族ずつに制限したことが異なる点だ。今までは土間に2~3家族入っていたため、前後の間隔が狭くなっていたり、詰まってしまうたりしていた。しかし、ひと家族ごとにすることで間隔を広くとることができ、何より赤ちゃんを連れていて荷物の多いお母さんを焦らせることなく渡せるようになったと感じた。

当日の流れは9時半に集合し作業の流れの説明を受け、検便をしているスタッフでお弁当を、それ以外のスタッフでまごころバッグなどの準備をした。今回も11時半のスタート前から子供たちが並び始め、11時半にスタートした。お弁当100個とまごころバッグ80個を用意した。子供68名、大人54名が来てくださったため、お弁当が足りず、予備のお菓子などを渡して対応した。また、ミニオンのお楽しみボックス(小さな文房具などがもらえる箱のくじ引き)があり、子どもたちの楽しむ様子が印象的だった。何が出てきたのか教えてくれる子がいたり、最後余った分を子どもたちと一緒に出したりして、私たち学生ボランティアが最も子どもたちとコミュニケーションをとれたのもくじ引きの時だった。

来てくださる人数は天気や学校行事など様々な要因によってかなり変動すると感じた。



お弁当を詰めている様子（撮影：國井）

○12月20日

日時:2020年12月20日(日) 14:30~15:00

参加費:全員無料

配布対象者:子どもは幼児~高校生、大人は高校卒業した年齢より上の方全て

配布したもの:

子ども用「まごころバッグ」(クリスマスバージョン)

・お菓子の詰め合わせ(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)

・お菓子(個人の支援者さん)

・クリスマスケーキ(株式会社渡辺機械製作所さん)

大人用

・そば

2020年12月20日に知立市西町公民館で開催されたちりゅっ子かふえ magocoro のクラシックライブとクリスマスプレゼントの配布に参加した。今回はクリスマスに近いということで「一般財団法人100万人のクラシックライブ」さんからバイオリンとピアノの演奏家の方々を呼んでクラシックミニライブをしてもらい、「株式会社渡辺機械製作所」さんから「ホテルクラウンパレス知立」さんのケーキ2種類を子どもたちに配った。100万人のクラシックライブは全国で行っているが、愛知県での開催は今回が初めてだそうだ。

当日の流れは13時に集合し作業の流れの説明を受け、会場設営をするスタッフとまごころバッグにお菓子を詰めるスタッフに分かれた。私は机で部屋を仕切り動線を作ったり、看板や飾りつけを手伝った。14時前から徐々に子どもたちが集まり始め、14時からプレゼントと交換できる引換券を配り、名前を書いた子から検温と消毒をして公民館の中に入ってもらった。公民館内は写真1のようにクラシックライブの部屋とプレゼントを配る部屋が分かれており、クラシックライブのあと順番にプレゼントをもらうという形をとった。公民館の中に入りきれなかった子どもや保護者は公民館の外から立ち見をしてもらった。

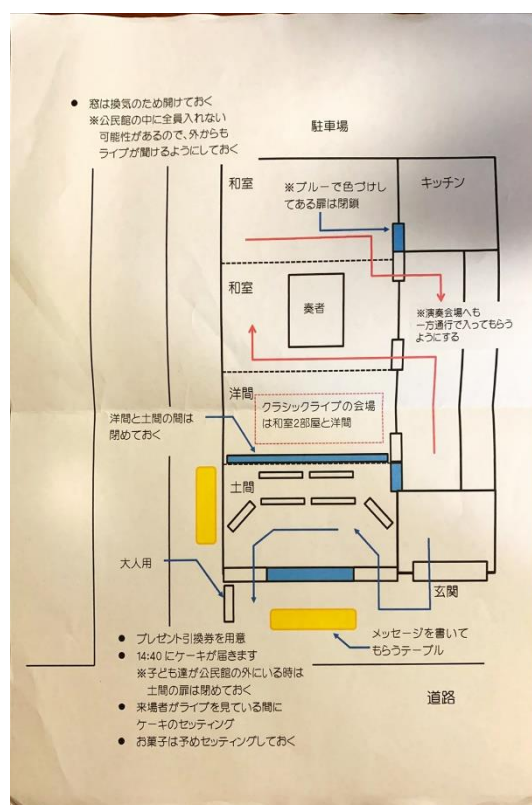


写真1:会場(作成:栗田、撮影:國井)

クラシックライブが始めるとクラウンパレスさんがケーキを持ってきてくださり、机に並べた。ライブが終わると、立ち見の人を優先に写真1の土間に移動して並んでもらい、引換券と交換で順番にプレゼントを渡していき終了した。

今回は子ども用のケーキとまごころバッグを 100 個と大人用のそばを 48 個用意し、子どもは 96 人、大人は 40 人程度来てくれた。クリスマスイベントということでサンタクロースの格好をしてきてくれる子もいたりと楽しみにしてくれている様子が伝わってきた。またボランティアも 24 人と多く、特に今回は中京大学現代社会学部のボランティア論を受けている生徒が数人来ていた。最初は何をしたらいいのか困っているようだったが、最後は楽しかったと言ってくれたことが嬉しかった。来てくれた子どもが楽しんでくれることはもちろんだが、私だけでなく周りのボランティアも楽しんでいることが分かれると子ども食堂の「居場所」の役割が実感できた。



左：クラシックコンサート（撮影：國井） 右：ケーキとまごころバッグ（撮影：國井）

○11月29日

日時:2020年11月29日(日) 11:30~12:00

参加費:大人200円、子ども無料

配布対象者:子どもは幼児~高校生、大人は高校卒業した年齢より上の方全て

配布したものの:

子ども用「まごころバッグ」

- ・お菓子の詰め合わせ(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)
- ・お菓子(個人の支援者さん)
- ・卵スープ(コープあいちさん)
- ・保存用ビスコ(知立市社会福祉協議会さん)
- ・バルーンアート(よしま~ずさん)

大人用

- ・お菓子(KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)

全員用

- ・カレーライス

じゃがいも、にんじん、玉ねぎ(八百種さん)

お米(米蔵屋さん)

豚肉(二宮畜産さん)

- ・マカロニサラダ

バジルソース(Sun Plus Caféさん)

- ・かぼちゃ(西町に住む個人のお宅で収穫されたもの 服部さん)

2020年11月29日に知立市西町公民館で開催されたちりゅっ子かふえ magocoro のフードパントリーとお弁当の配布・販売に参加した。今回もアルコール消毒やマスク着用、スタッフの検温など新型コロナウイルス対策を万全に行った。

当日の流れは9時半に集合し作業の流れの説明を受け、検便をしているボランティアスタッフでカレーライスとマカロニサラダ、プラスチック容器の準備をし、それ以外のスタッフでまごころバッグや会場設営をした。私はプラスチック容器にアレルギー表示のシールを貼り付けたあと、カレーライスの盛り付けを手伝った。今回もサンクスカードを配らせていただいたが、配布方法を前回と変更し、あらかじめ趣意書とサンクスカードを1枚ずつ折って返信用封筒に入れておき、一世帯1セットとその場で残りの人数分のサンクスカードを大人の方への料金徴収の時に渡した。

今回も11時半のスタート前から子どもたちが並び始め、11時半にスタートした。まごころバッグ95個とカレーライス100個を用意していたが、子ども50名、大人45名が来てくれた。大人は今回からお金をもらうにもかかわらず、前回同様多くの人に来てくれた。しかし子どもは今まで80~90人来てくれていたが、今回は今までよりかなり減少してしまった。保存がきくお菓子がもらえるフードパントリーに比べて、その日のうちに食べてしまわないといけないカレーライスは貰いたいと思う人が少ないのかと考えた。しかしボランティアスタッフの話によると、付近の中学校が時間を分散して部活動をしていたり、感染者が出てしまい外出自粛中であつたりと、来れる中学生が少なかったことも理由としてあるので

はないかと言っていた。

今回久しぶりに自分たちで作ったご飯を提供したため手間取った部分もあったが、子ども食堂再開の第一歩としてご飯づくりを再開できたことは今後の期待につながる感じた。



カレーを作る様子（撮影：國井）



配ったカレーライス（撮影：國井）

○10月18日

日時:2020年10月18日(日) 11:30~12:00

参加費:無料

配布対象者:子どもは幼児~高校生、大人は高校卒業した年齢より上の方全て

配布したもの:

子ども用「まごころバッグ」

- ・カップスープ(ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)さん)
- ・お菓子の詰め合わせ(米蔵屋さん)
- ・お菓子(個人の支援者さん)
- ・防災用カンパン(匿名の企業さん)
- ・パンプキンパンケーキ(マルト水谷さんのハッピーリングチャリティーの助成金で購入)
- ・バルーンアート(よしま~ずさん)

大人用

- ・大入りの飴(社会福祉協議会さん)
- ・備蓄用の水(以前の余り)
- ・カンパン(匿名の企業さん)

全員用

- ・アルファ化米の五目ご飯(東京都福祉保健局さん)

2020年10月18日に知立市西町公民館で開催されたちりゆっ子かふえ magocoro のフードパントリーに参加した。今回もアルコール消毒やマスク着用など新型コロナウイルス対策を万全に行った。

当日の流れは9時半に集合し作業の流れの説明を受け、検便をしているボランティアスタッフで五目ご飯と付け合わせのたくあん、プラスチック容器の準備をし、それ以外のスタッフでまごころバッグや会場設営をした。私は今回もたくあんや五目ご飯の準備を手伝った。11時半のスタート前から子どもたちが並び始めたため、並んでいるひと世帯ずつにサンクスカードのお願いと配布をして回り、配布後にフードパントリーの手伝いに加わった。

子ども用まごころバッグを100セット、大人用に詰め合わせたものを30セット用意していたが、大人用はすぐに配布し終わりバラバラで用意していたカンパンや大入りの飴を配った。それに対して子ども用は89セットと今までとそこまで変わらない数だった。

この理由として、今回は近くの知立神社に七五三で来ていた家族や、おじいちゃんおばあちゃんから孫まで3世帯で来ていた家族、高齢の夫婦だけで来ていた世帯が多かったことが挙げられる。もちろん小学生だけのグループもいたが今までほど多くは見られず、子ども1人に対して大人が2人以上いるグループが多く見られた。七五三やハロウィンパーティーで3世帯集まること多い時期なのかと感じた。また、高齢者のみで来られる方も何人か見られ、子ども食堂の名前が子ども以外にも認知され始めたのだろうかと感じた。

また、宣伝のチラシに「ハロウィンに関係のあるものをもってきてね」と書いたところ、小さな髪飾りから全身の仮装までほとんどの子どもたちがハロウィンに関係のあるものを持ってきてくれていた。チラシに書いた効果もあるが、子どもたちも数少ない今年のイベン

トを楽しみに準備してくれたのではないかと思い、改めて食材を渡すだけでなく子どもたちが楽しめる遊びの部分の重要性を感じた。



[写真左：当日の案内、写真右：子ども用まごころバッグの内容（撮影：國井）]

○9月26日

開催地：知立市 西町公民館

開催日時：9月26日(土) 11:30~12:00

参加費：無料

配布対象者：子ども用は幼児から高校生まで、大人用は保護者の方

配布したもの：

子ども用「まごころバッグ」

- ・お菓子（KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん）
- ・カップスープ（ポッカサッポロフード&ビバレッジ（株）さん）
- ・バルーンアート（よしま〜ずさん）

大人用

- ・防災用飲料水
- ・お菓子（KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん）

全員

- ・アルファ化米の五目ごはん（東京都福祉保健局）



左の写真の下の入入口から入り上の入り口に出て、右の写真の左から右へ進む（撮影：國井）

9月26日に知立市西町公民館で開催されたちりゅっ子かふえ magocoro のフードパントリーに参加した。新型コロナウイルス感染症の対策として、今回も手の消毒とマスクの着用をし、来てくれた子どもやその家族にも協力をお願いした。配布場所も蜜を避けるために扉や机を使って一方通行の進路を作り、ほとんどを屋外でおこなった。

当日の流れは、9時半に集合し作業の説明の後、検便をしていたスタッフで五目ごはんを付け合わせのたくあんを準備をし、炊けたものをプラスチックの容器に入れていった。五目ごはんはすぐ食べれるようにスプーンをつけ輪ゴムでとめておき、アレルギー表示のシールも貼った。今回いただいた五目ごはんは東京都福祉保健局というところで備蓄してあつ



アルファ化米を炊く様子
(撮影：國井)

た非常用のアルファ化米で、賞味期限が 10 月ごろと近いことから寄付していただいたそうだ。お湯を入れて 15 分待つだけで簡単に完成した。ちりゅっ子かふえは子ども食堂を開催しているときから検便をした人だけが食事を触れることになっている。検便をしていない人でまごころバッグにお菓子やカップスープを入れ、会場設営をした。11 時前から徐々に子どもが集まり始め、11 時半に配布を始めた。子ども用の配布は幼児から高校生までを対象としており、そこでは私は子ども用まごころバッグを配る係を担当した。その後 12 時まで開催し、12 時になると片付けをして終了した。

今回は子ども用 100 個、大人用 50 個を用意し、子ども用 78 個、大人用 43 個を配った。前回 8 月 30 日に開催した時よりも大人だけで来る人が多く、子どもも親と一緒に来ている子が目立った。また、余ることが確実に増えてきたため、大人だけで来た人に対しお孫さんの分も持って行ってくださいと子ども用まごころバッグを渡した数や、3 歳以下と配布対象外の年齢であってもまごころバッグを渡した数もいくつかあったため、実際に幼児から高校生までの子どもに配った純粋な数は 50 個程度だと思われる。よく来てくださる大人の方から今回は告知が少なかったとの声もいただいております、以前より来てくれた人が少ないことの原因が食べ物に困る人が少なくなったのか、新型コロナウイルスが落ち着いてきたと感じ外出している人が多いためののか、告知不足かは分からなかった。

次回の開催は 10 月 18 日であり、今回同様ごはんのテイクアウトを予定している。そして 11 月の開催も、ごはんやおかずを使い捨てのお弁当箱に詰めて渡すテイクアウトを考えているそうだ。前回の 8 月に参加したときは子ども食堂として再開させたいという話を聞いたが、小さな子供からお年寄りまで集まる子ども食堂を開催させるにはまだ新型コロナウイルスに対する課題が多いのだろうと思った。子どもたちが楽しく遊びまわり、おいしく食事をしていた昨年の子どもの食堂を思い出すと現在はかなり変わってしまったが、その中でもフードパントリーの短い時間で子どもたちが笑顔になれる工夫ができればと思う。

○8月30日

開催地：知立市 西町公民館

開催日時：8月30日(日) 11:30~12:00

参加費：無料

配布対象者：子ども用は幼児から高校生まで、大人用は保護者の方

配布したもの：

子ども用「まごころバッグ」

・お菓子(知立ロータリークラブさん、KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん、知立市役所、個人の支援者の方)

・お米(株式会社クエタトレーディングさん、米蔵家さん 小分けのパッケージは全て米蔵家さん)

・ジュース

・ビニール風船のおもちゃ(知立ロータリークラブさん)

・おもちゃの扇風機(知立ロータリークラブさん)

・バルーンアート(よしま~ずさん)

・ヨーヨー

・団子の引換券(八百種さん すぐ近くの知立神社の駐車場でおこなわれていたテイクアウトフェスティバルで引き換えでき、券1枚で団子2本が貰える)

大人用「小くりもの(贈り物)バッグ」

・お菓子等(八百種さん、KEIZ ギャラリーエアピタ知立店さん)



写真：準備したまごころバッグ (撮影 國井)

8月30日に知立市西町公民館で開催されたちりゅっ子かふえ magocoro のフードパントリーに参加した。新型コロナウイルス感染症の対策として、今回も消毒とマスクの着用をし、来てくれた子どもやその家族にも協力をお願いした。配布場所も蜜を避けるために扉や机を使って一方通行の進路を作り、ほとんどを屋外でおこなった。

当日は9時半に西町公民館に集合し、会場の設営をした。ボランティアが全員集まると当日の流れの説明や寄付でいただいたものの説明があった。そして私を含め学生ボランティア4人でヨーヨーを作り、よしま~ずさんという方たちもバルーンアートを作りに来てくださった。11時過ぎには準備が整っており、来てくれた子どもたちとその家族の行列もできてきていたため、開始時間を10分早めて11時20分からフードパントリーを開始した。子ども用の配布は幼児から高校生までを対象としており、そこでは私はジュースを配る係

を担当した。その後 12 時まで開催し、12 時になると片付けをして終了した。

配布するバッグは子ども用 110 セットと大人用 30 セットを用意していたが、大人用は開始して 10 分ほど経った頃には配り終えてしまった。子ども用は来てくれた子のみでは配りきらず、公民館の前の道を通りかかった子どもたちに呼びかけて渡していったが 20 袋ほど余ったため、最終的に子どもは 90 人程度が来てくれたと分かった。

ちりゅっ子かふえの栗田さんは今回のヨーヨーやバルーンについて、今年は子どもたちが楽しみにしていたお祭りが全てなくなってしまったため、少しでもお祭り気分を味わって楽しんで帰ってほしいと話していた。子どもたちもヨーヨーの色を選ぶのに夢中になっていたり、もらったバルーンアートで遊んでいたりととても楽しそうにしていたのが印象的だった。フードパントリーという、今まで食べるものに困っている家庭を助けるという点にかなり重点を置いて考えていた。しかし今回、生きていくための支援だけではなく楽しみの支援をすることにも意味があると感じた。子どもたちの笑顔のための活動は何があるのか、食料支援以外の方法も考えていきたいと思う。



写真：ヨーヨー この後水に浮かべる（撮影 國井）

○6月7日

開催場所：知立神社内 知立公園 知立神社養正館

開催日時：2020年6月7日 11:30~12:00

配布対象者：幼児から高校生まで

配布したもの：お菓子、ドレッシング、ゆで卵、お米、パン、布マスク等を紙袋「まごころバッグ」に入れて配布。袋によって内容は多少違うものの、お米、パン、布マスク、ゆで卵は両日とも全員に配布した。

当日の流れ：会場設営→整理券を配布→バッグの配布→会場撤去作業→解散

6月7日に開催されたちりゅっ子かふえのフードパントリーに参加した。5月30日と同様にボランティアは10:00ごろに開催場所に集合し、机の設置や配布する紙袋を配布場所まで移動させ、当日受け取ったパンやゆで卵の仕分け作業をした。受けとる仕組みも変わらず、当日配られた整理券と引き換えに貰う。2か



所ある配布場所にはそれぞれアルコール消毒液が左の写真のように設置されており、並んでいる人が消毒をしてからまごころバッグ、お米、布マスクと順番に受け取っていくバイキング形式になっていた。また、開催場所は公園内のため待っている間は散らばって待てるが、整理券をもらおうと並びに行くためその時は人と人との間をあけるようアナウンスがされていた。

(写真：配布場所に並べられたまごころバッグとアルコール消毒液)

今回のフードパントリーも100人分用意したが、終了時刻の12:00の時点で85人であった。15袋も余りが出てしまったことは少し悲しいが、1月18日に今回開催したちりゅっ子かふえの参加者は、子ども48人、大人42人であった。フードパントリーは子どものみの人数なので、子ども食堂の時の2倍近い数の子どもが来てくれたことが分かった。開催した時点での季節や社会情勢等の違いはあるが、子ども食堂を開催した公民館とフードパントリーを開催した公演はすぐ近くにあるため、同じ地域の子どもが来ていると考えられる。このことから、子ども食堂よりフードパントリーの方が子どもたちやその親にとって参加のハードルが低いということが新たな発見であった。フードパントリーにはコロナ禍で集まることができない状況でも支援をすることができるというメリット以外に、今まで子ども食堂に参加していなかった子どもも参加しやすく、多くの人にちりゅっ子かふえを知ってもらい機会にもなるということが分かった。

○5月30日

開催場所：知立神社内 知立公園 知立神社養正館

開催日時：2020年5月30日 11:30~12:00

配布対象者：幼児から高校生まで

配布したもの：ペットボトル飲料、お菓子、インスタント味噌汁、お米、パン、布マスク等があり、袋によって内容は多少違うものの、お米、パン、布マスクは全員に配布した。

当日の流れ：会場設営→整理券を配布→バッグの配布→会場撤去作業→解散

5月30日に開催されたちりゅっ子かふえのフードパントリーに参加した。ボランティアは10:00ごろに開催場所に集合し、机の設置や配布する紙袋を配布場所まで移動させ、当日受け取ったパンの仕分け作業をした。食品を受け取る仕組みとしては、まず整理券を一人一枚受け取り、2か所に分かれて支援者へのメッセージを記入、こちらも2か所に分かれているまごころバッグの配布場所まで移動し、メッセージを書いた整理券と引き換えにバッグを受け取る。



来た人が密集しないようにそれぞれ2か所設置していたり、配布場所にはアルコール消毒を設置、配布担当は食材を触るため手袋を着用していたりと新型コロナウイルスの感染対策を徹底していると感じた。

(写真：まごころバッグ)

開始30分前から徐々に人が集まり始め、公園内は整理券の配布を待つ人でいっぱいになった。聞いた話によると、5月30日より前に開催していたフードパントリーで雨が降った日があり、その日は雨の中開催時間まで待ってもらうわけにはいかないからと来た人から早めに整理券を配り始めていたようだ。そのため早く来れば先に整理券がもらえと思った人も多いのではないかとのことだった。今回は先に配らず待ってもらい、11:20ごろから配布方法の説明と整理券の配布を始めた。



(写真：整理券配布の様子)

今回は最初に集まった人で終了時刻の12:00を待たずに準備した100人分がなくなり、後から来た2人には予備として用意していたものを渡した。また、子どもの年齢は小学校3~4年生までが多いと感じ、親と一緒に来る子どもも子どものみで来る子どももいたが親と一緒に来る子のほうが多いと感じた。そして、一緒に来た親は子ども食堂の時は母親か両親どちら

らもがほとんどだったのに対し、フードパントリーでは父親と子どもで来る家庭も目立った。同じ地域で活動しても、活動の形によって来る人が少しずつ変わっていることが新たな発見であった。

○2月2日

開催地：知立市 ヴィラトピア知立

開催日時：2020年2月2日

参加費：大人300円、子ども無料

2月2日のメニュー： ごはん（ふりかけ）、豚汁、大豆とひじきの煮物、つけもの

私は2月2日にヴィラトピア知立で開催されたちりゅっ子かふえ magocoro に参加してきました。今回のヴィラトピア知立での開催もヴィラマルシェと同日に開催したため、子ども食堂目当てではなくマルシェのついでにご飯を食べていく大人の参加者が多かった。また、西町公民館で開催したちりゅっ子かふえに比べ、詳しい人数までは把握しきれていないが全体の参加人数も半数ほどになった。

当日の流れは、まず検便をしている調理班は9時に、受付班は9時半に集合し、それぞれの持ち場の準備を始めた。私は受付班であるため9時半前に到着し、旗の設置や受付場の設営をほかのボランティアスタッフと共に行った。ちりゅっ子かふえのボランティアスタッフは高齢の方が多く、その日は学生は私ひとりであったことや風が強いなかの屋外の作業が多かったため手の届きにくい高い場所や重いものの作業は積極的にやっていたが、ボランティアスタッフの皆さんも高齢だとは思えないぐらいはきはきと準備や調理をしていて驚いた。

開始後は私たちがいる屋外の受付場所で名前と大人の方はお金をいただき、番号札を渡して食事をする施設の「はなれ」で番号札と引き換えに食事をしてもらった。とても風が強く、受付で子どもたちに配るように置いていた折り紙作品が飛んで行ってしまう場面もあったが、近くにいた子どもたちに拾うのを手伝ってもらったり、犬を連れてきていた子がおり、犬とその子と一緒に遊んだりと楽しい時間を過ごした。また、私たちボランティアスタッフも300円払っており、交代でご飯を食べた。そして用意していた30食ほどがなくなると同時に12時の終了時間になったため、片付けをして解散した。

今回のメニューでは、地域の小学生から貰った大豆やエメラルドライオンズさんという団体から頂いた味噌、マルシェで売っているふりかけを使っており、様々なところからのつながりやご縁があって開催できているということ強く実感した。

一方で、西町公民館で開催するちりゅっ子かふえとの違いも多く感じた。違いがあった点は、参加者数、大人と子どもの比率、開催場所の立地条件、開催内容である。まず参加者について、違いが生まれる理由は立地条件が大きいと思った。西町公民館は住宅街にあり道も通りやすくわかりやすい場所にある。しかしヴィラトピア知立は川沿いで住宅街というほど周りに家があるわけではなく、その場所までの道も分かりづらいと思った。そのため人が近くに多くいて、子どもが徒歩や自転車で行きやすい西町公民館のほうが参加者も多いし比率も子どものほうが多いのではないかと考えた。開催内容はヴィラトピア知立で使わせてもらっている建物が西町公民館よりも小さく、イスとテーブルで食べるスタイルであるため子ども向けのレクリエーションはしにくいのだろうと思った。このように、同じ名前の子どもの食堂でも開催場所などの条件によってかなり内容や雰囲気が変わってしまうことに驚き、面白いと思った。

○11月30日

開催地:知立市 西町公民館

開催日時:2019年11月30日 11:30~14:00

参加費:大人300円、子ども無料

11月30日のメニュー:ミートボールカレーライス、ツナマカロニサラダ、フレッシュクラッシュゼリー

参加人数:大人と子ども63人、ボランティアスタッフ16人

私は11月30日に知立市西町公民館で開催されたちりゅっ子かふえ magocoroに参加してきました。ちりゅっ子かふえは私は3回目の参加で、用事があったため最後のミーティングまで残ることはできなかったため詳しい人数はわからないが、大人よりも子どもが多く来てくれたようだ。ちりゅっ子かふえは今回の西町公民館と前回行ったヴィラトピア知立という特別養護老人ホームの2ヶ所で行っており、ヴィラトピア知立はヴィラマルシェというマルシェの時に一緒にするため大人が多くなってしまいが、西町公民館は子どもだけで来ることができるので賑やかな子ども食堂になった。

子ども食堂に来た子どもたちは入り口で受付をし、人数分の番号札をもらって部屋の奥でご飯を受け取り好きな机に座って食べていた。入り口で受付を済ますことは他の子ども食堂も多く取り入れているシステムで、番号札を使うシステムは西福寺おかげさま食堂と似ていると感じた。

一方、私が今まで参加した子ども食堂と明らかに違った点は、調理担当の人と受付・遊び担当の人が完全に分かれている点である。他の子ども食堂でも役割として調理や受付など分かっていたが、日によって交代することもできた。しかしちりゅっ子かふえでは調理担当の人は検便をし、検査をしていない人は調理はもちろん配膳もできず、食べ物に触らないよう徹底していた。また、ご飯を食べる場所の隣で遊ぶことができるが、受付の際に申し込めば先着20人限定でレジンのキーホルダー作り体験もでき、小学生の女の子たちにとっても人気だった。

私は受付とおりがみ教室を中心にいろんな子どもと遊ぶ役割をした。受付では下の写真の右側にある名簿に名前と年齢、簡単な住所などとアレルギーの有無を書いてもらい、大人は隣のクマの入れ物に1人300円を入れてもらって番号札を渡した。番号札は大人子どもの区別はなく、ただ子ども食堂側が用意できるご飯の人数分だけ番号札を用意しておいて、今どれくらい食べに来ているかを把握するためのものだ。おりがみ教室はおりがみが得意なボランティアの方を中心に私も本を見ながら子どもたちが作りたいと言ったものを一緒に作った。また見本として今までに作ったものがたくさん置いてあり、まだおりがみができない子どもはそれで遊んだり好きなのをあげたりした。1時半ごろからビンゴ大会もした。受付で子どもたちにビンゴカードを配り、子どもはほぼ全員参加していた。ビンゴの景品は小学生用の漢字や国語ノート、パックジュース、お菓子、ゼリーで、ほとんどが寄付されたものだと言った。特にノートは前回のビンゴ大会でも景品になっていたし、ゼリーは毎回デザートで出されるフルーツクラッシュゼリーに使われるゼリーが余ったものだ。ゼリーは賞味期限が近いので景品にして余ったものはボランティアスタッフで分けたが、パックジュースは次回の子どもの食堂まで賞味期限がもつためまた次回までとってお

くそうだ。

今回ちりゅっ子かふえ magocoro に参加して、住宅街の中にあるという立地の良さと手作り体験やビンゴ大会など小学生以下の子どもたちが喜ぶイベントが多いことが、今年始めたばかりなのに多くの人に来てもらえる理由なのかと考えた。また、ちりゅっ子かふえが寄付してもらっているものは他の子ども食堂と少し違うものが多い気がしたが、それを賢く活用して無駄にならないようにしなければならないところに運営の難しさを感じた。今回のちりゅっ子かふえを開催した西町公民館と前回のヴィラトピア知立では立地条件、食べに来る人数・年齢層、内容がかなり異なっており、とても興味深いと感じたため引き続き参加したいと思う。

